

防コミの歩き方



質の高い『共助』を目指して

(北五葉ふれあいのまちづくり協議会)

北五葉小学校区（北区）の防災福祉コミュニティは、“ふれまち”が平成7年3月に発足し、“防コミ”も同時期に設立されたため、“ふれまち”の中に取り込み、「北五葉ふれあいのまちづくり協議会 防災部」として発足しました。

年間行事として、年度初めの防災リーダー研修に始まり、放水訓練、資機材庫の点検（春は五葉松公園、秋は夏堀公園）、防犯・防火のための夜間パトロール（夏、冬）、防災関連の施設見学会、冬の炊き出し訓練など多岐にわたっていますが、更に、地域独自の防災行事を行っていますのでご紹介します。

■防災フェスティバル

地域の小さな子供から高齢者まで防災を身近に感じてもらうと、北五葉小学校の校庭いっばいに防災関連のブースを展開しています。

起震車をはじめ、煙体験、いつでも蛇口、水消火器、車いす体験などの体験物から、アルファ化米をおいしく食べる工夫とか紙スリッパの作り方など知っていれば便利な防災知識まで様々なブースを設け、地域住民の防災知識の普及に努めています。

■ジュニア防災リーダー養成講座

北五葉小学校の4年生から6年生の児童を対象に行っています。

阪神・淡路大震災の経験を、次世代への継承を目的に、また、今後発生が危惧されている地震（南海・東南海）への備えなど、少しでも防災に興味を持ってもらおうと始めたものです。

この講座の特徴は、プログラム作りから当日の進行まで、神戸学院大学の防災専攻の学生が行うという点です。



真剣に取り組む心肺蘇生

子供たちは学生とうちとけ、楽しみながら、防災の知識を身に付けていきます。

コロナ前は避難所体験として体育館での宿泊を組み込み、1泊2日で行っていましたが、現在は日帰りで実施しています。

当事業の目的どおり、今後中学生になっても防災に興味を持っていきたいと感想文に書いてくれた児童もいました。

■災害時要援護者安否確認訓練

阪神・淡路大震災では、家の下敷きになりながら

救助された人の9割近くが、近所の方の力によるものでした。これは近所の方々が知り合いだったから、仲良しだったから出来

たことです。これに少しでも近づけていきたいという思いから、災害時要援護者安否確認訓練に取り組んでいます。支援者として要援護者の安否確認に参加した人からは、「地域に住んでいるいろいろな人に知り合えてよかった」という感想が多く聞かれます。地域の多くの方が支援者を経験することで、みんなが知り合いになる、そんな地域社会を目指していきたいと考えています。



救助された人の9割近くが、近所の方の力によるものでした。これは近所の方々が知り合いだったから、仲良しだったから出来

無事を知らせるタオル



以上、北五葉ふれあいのまちづくり協議会防災部が取り組んでいる防災の活動を簡単に紹介しましたが、これらの取り込みが北五葉地区住民並びにその子供たちの安心・安全につながっていくよう、さらに歩みを進めていきたいと考えています。